

目的 前報で婦人服裏地の着用感を項目別に尺度化した。そこで本報では裏地の力学的性質, 表面特性, 熱水分移動特性および帯電性を測定し, 前報の着用感結果との関連づけをおこない, 衣服の着用感におよぼす素材物性の影響を明らかにする。

方法 試料は前報と同じである。裏地の力学的性質はKES-FBシステムで, 熱水分移動特性はサーモラボII型により測定した。帯電性評価は小片テスト法, 脱衣テスト法, タンブラー法による。これらの性質の測定は夏季, 冬季の環境湿度を考慮して, 裏地の含水率を変化させ, その影響によるこれらの諸物性の变化を捉えて検討する。

結果 夏季の着用感調査で繊維素材間に有意差のみられた項目内容は, 高温条件下での熱水分移動特性と関連づけられる。すなわち, 高温条件において高い含水率を示す親水性繊維のレーヨン, キュプラ裏地は疎水性繊維のポリエステル, ナイロン裏地よりも接触冷感感 $\delta_{max}$ , Heat loss が大きい。これは夏のような多湿時ではレーヨン, キュプラ裏地の方が涼しく着用できることを示している。低温条件ではこのような特性差が小さく, 冬用裏地の着用感に有意差のみられなかったことと一致する。冬用として加えた絹裏地は $\delta_{max}$ , Heat loss とも他の素材に比べてかなり小さく暖かいこともわかる。着用感調査から絹裏地はまつわりつく評価されたが, 帯電性試験および表面特性からは, 他の素材との違いがみられず, これは絹裏地が軽くて曲げ抵抗が小さく, そのやわらかさのためにまつわりつくことなどが推察される。

\*現在, 東レ(株)勤務